

2024年（令和6年）5月9日

「非売愛蔵絵画」出版発表会の開催について

小諸市出身の文化勲章受章者 小山敬三画伯には、ある時期に「ほとんど世に発表していない作品がある」ことが判ってきました。

小山敬三美術館の後援団体である「美術館友の会」では、独自の調査・探求を行い、この時期の貴重な絵画を図集として出版することになりました。

つきましては、出版発表会を下記のとおり開催いたしますので、当日の取材対応にご協力をお願いします。

（1）報道発表日時

令和6年 5月14日（火） 午前10時から

（2）場所

小諸市立 小山敬三美術館 記念館にて

（3）内 容

- ・小山敬三画集「非売愛蔵絵画」の出版発表会
 - ・出版にあたってのごあいさつ（小山敬三美術館友の会会長 小林氏）
 - ・画集「非売愛蔵絵画」についてのご案内（小山敬三美術館学芸員）

・その他

会場には、画集掲載の絵画や資料となった画集などをご用意しております。
当日ご来場の方には、記事資料として本書の一部コピーを配付いたします。

（4）資 料

- ・別紙のとおり

■問い合わせ先

小諸市立小山敬三美術館 担当：学芸員 中嶋 慶八郎

TEL 0267-22-3428 Eメール keizo@city.komoro.nagano.jp

(別紙)

【小山敬三画集「非売愛蔵絵画」の出版発表会】ご案内

小山敬三画伯は小諸に生まれ、慶應大学中退後フランスに留学しました。在仏時代からその絵画と芸術に向かう姿勢は高く評価され、帰国後は常に日本の画壇をリードし、晩年は文化勲章を受賞しました。

画伯の主な作品は、生前から講談社、日動画廊などから豪華な画集として発行され、多くの人々に知られているところですが、実は世に知られていない「空白の八年間」の時期があり、その間に描いた96点の油彩画が写真として記録されていました。

この八年間の絵画は、限られたメンバーの手にひそかに渡っていましたが、現在、作品そのものはほとんど所在不明で、写真版の記録でさえ手に入れることが難しい状況です。

このたび、美術館に保管されていた4冊の写真集を、美術館友の会が再構成およびデジタル化し、絵画集として出版する運びとなりました。

これは、一人の偉大な画家の生涯のあゆみを知る上で極めて重要な資料であり、また美術館にとっても貴重な資料であります。